

小地域福祉活動の更なる推進 地域福祉のコーディネート機能の充実



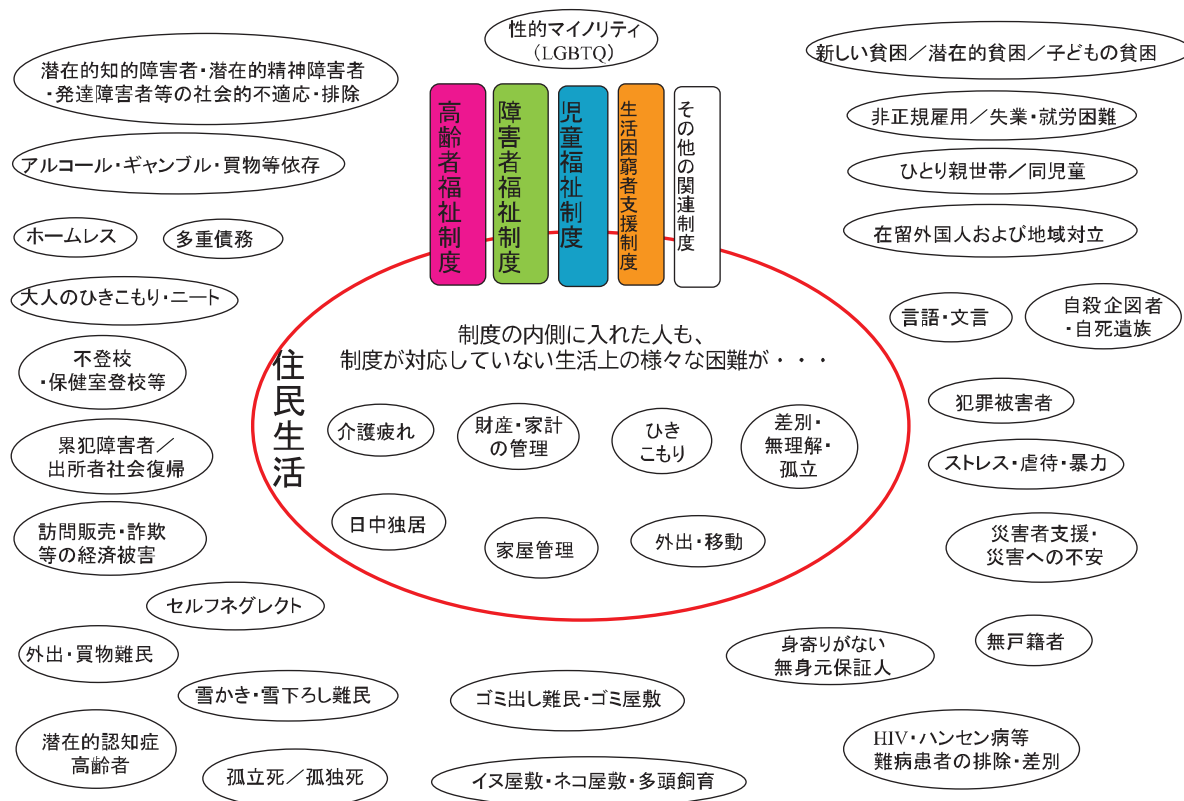
小地域福祉活動HP

★小地域福祉活動を推進する目的（なんのために）

地域で暮らす誰もが差別や排除されず、一人の人間として尊重され、持てる能力に応じた自立生活を営める地域をつくる。

★小地域福祉活動を推進する背景（なぜ推進するのか）

福祉制度の外にある様々な生活課題（社会問題）



- 地域生活の中では、各種の制度やサービスの充実が図られたとしても、生活上の困りごとに対して活用されていない場合や、既存のものでは対応ができず、制度と制度の狭間に置かれている様々な生活課題があります。
- 本人・地域住民・関係機関によって、様々な生活課題が明らかになる場合もありますが、気づいた時には早期解決は難しい生活課題の重度化・複雑化・深刻化の傾向があり、住民や関係機関が連携した取り組みは、事後的な対応となっています。
- なぜ困りごとが重度化・複雑化・深刻化するのか → 潜在化（見えない、気づけない）

【 困りごとが潜在化する（見えない、気づけない）要因 】

- ① 地域の中に偏見や差別があり、自分には関係のない他人事として見過ごされる
- ② 困っていることを相談できない、身近に気軽に相談できる人がいない
- ③ 病識がなく、生活上の困りごととして気がつかない
- ④ 困りごとを解決するための必要な情報を見つける力、集める力が少ない
- ⑤ 困りごとを解決する制度やサービス、住民の取り組みがない・・・など

- そのため「表に出ている困りごとよりも、多くは見えていない」という考え方のもと、地域の皆さまによる早期発見のための活動や見守りの仕組みづくりを支援しています。

★ 困りごとを解決する地域づくりを着実にすすめるために

社協では、暮らしの中で見えなくなりがちな困りごとを地域で解決できるように、市内3地域に担当職員（コミュニティ・ソーシャルワーカー）を配置。実施計画を策定し計画的に地域づくりをすすめています。

・ 東部地域（大門町）

住民と社会福祉法人による支え合い事業の立ち上げ、誰もが参加できる拠点（居場所）づくり

アンケート調査の結果を支え合い（生活支援）事業の礎とし、支え合い事業（仮称）要綱を作成・共有する。年3～4回、支え合い懇談会を開催し、課題や成果を共有する。また懇談内容を知らせる通信を作成して配布する。

・ 中部地域（中央町・幸町・南町）

地域で孤立している人（世帯）に対し、社会（地域）とのつながりを持ち、適切な相談先など拠り所となる場所が見つかるよう支援する。

各種拠点（ハード）をベースにいろいろな団体等が関わることで、地域住民の常日頃の居場所づくりや困った時に頼れる場所づくり（ソフト）を支援する。

・ 西部地域（滝山）

第9小学校避難所の地域住民（滝山3・4・5丁目、前沢5丁目）と防災情報を主に共有し、防災の意識を高める。

小学校避難所の地域（滝山3・4丁目）ニーズ調査と防災講座または座談会を開催し、関係者会議につなげる。

★ 小地域福祉活動の実践例

第220号 ひがしくるめ社協だより 3面 令和5年（2023年）2月1日発行

ふくしのまちづくり実践中

西部地域担当より
小地域福祉活動レポート

報告

前触れなく突然訪れる災害…あなたはどうしますか？ 滝山5丁目地域の減災・防災対策に関するアンケート調査

安心して心ゆたかに暮らせる地域づくりに向けて、滝山五丁目自治会と社協が協力し、防災に関する現況についてアンケートを実施しました。

- 【対象】 滝山5丁目にお住まいの方 531世帯
(滝山五丁目自治会以外の自治会加入者を除く)
- 【回答数】 213件、回答率40.1%
- 【期間】 令和4年11月1日(火)～12月2日(金)

滝山5丁目は戸建住宅が多く、回答者の約70%が10年以上居住しています。アンケートでは、近所との付き合いや防災意識、自治会に期待することなどを調査しました。

集計結果から、有事の際は第七小学校に避難しようと考えている人が多いことがわかりました。市が指定する第九小学校は高齢のため遠くに行くことが難しいという人、在宅避難（災害発生時に自宅が安全な場合、自宅に留まる方法）を考えている人もいました。※避難所はどこの避難所を利用しても良いとされています。

また、避難所に行くために支援を必要としている人や、近隣に気になる人がいるという回答が全体の約7割ありました。

「できるだけ近所で助け合っていきたい」「地域住民が顔見知りになれるような機会があると良い」などのご意見も多数ありました。

アンケート調査の結果は地域の皆さんと共有し、明らかになった課題について、一緒に考えていきます。2月に報告会・防災ミニ講座を開催しますので、地域の顔見知りを増やすきっかけづくりにご活用ください。

滝山5丁目地域の減災・防災対策に関するアンケート

(滝山五丁目自治会・東久留米市社会福祉協議会による現況調査)

前触れなく、突然訪れる災害 - あなたはどうしますか？
【安心して心豊かに暮らせる地域づくりにむけて】



・建物全壊・火災焼失棟数	194,431棟
・死者数	6,148人
・避難者	約2,990,000人

(2022.5.25 東京都防災会議「東京都の新たな被害想定」より)

報告会・防災ミニ講座

- 【日時】 2月18日(土)午前10時～11時半
- 【会場】 西部地域センター 第二・三講習室
- 【対象】 滝山5丁目にお住まいの方(自治会会員に限りません)
- 【内容】 アンケート結果の報告、在宅避難についてのミニ講座

【問い合わせ】 地域福祉担当 ☎ 042-475-0739

問い合わせ
連絡先

東久留米市社会福祉協議会 小地域福祉活動 担当
203-0033 東久留米市滝山4-3-14 わくわく健康プラザ2階
電話 042-475-0739 (ボランティアセンター)